

新たな門出を祝って 福祉成人祝賀会

平成29年福祉成人祝賀会は8日、ホテルシティプラザ北上で開催されました。身体障害者手帳、療育手帳などを持つ市内の新成人12人とその家族、福祉関係者らが出席。新成人を代表して島津朗さん(和賀町藤根)が「学校の先生や家族など多くの皆さんのおかげで成人式を迎えることができた。これからも一生懸命頑張る」と決意を述べました。その後、障害者地域活動支援センター楽楽の12人がハンドベルで「ふるさと」など3曲を演奏。新成人の門出を祝いました。

成人者を代表し島津さん(中央)があいさつを行いました



北上消防署の職員が店舗や住宅などを回り火災予防啓発を行いました

火災予防へ意識を高めて 年末年始特別警戒実施

年末年始特別警戒は12月28日から30日の3日間、本通り、諏訪町および青柳町周辺で行われました。12月22日に新潟県糸魚川市で発生した大規模火災は家屋などの密集地で起こったことから、火気の取り扱いが増える年末年始を前に北上消防署の職員が市街地の店舗や住宅を一軒一軒訪問。より一層の火災予防を呼びかけました。諏訪町で飲食店CONNECTを経営する照井公博さん(32歳)は「ちょっとした不注意で火災が起きるかもしれない。気を付けたい」と話しました。

市と海外をつなぎ20年 国際交流ルーム開設20周年記念公演

国際交流ルーム開設20周年記念公演は14日、さくらホールで行われました。同ルームは市の国際化の推進を目的に平成8年に開設され、28年に20周年を迎えました。当日はシンガーソングライターの屋良とものぶさんらにより姉妹都市の歌「Catch the Rainbow」が披露されたほか、同ルームにつながるのある外国人のトークや英語落語会などを開催。トークでは、それぞれの体験談を語ったほか、市を外国人が暮らしやすい街にしていってほしいとのメッセージがありました。

外国人のトークでは、自身の体験を交えてトークが交わされました



映画の製作時のエピソードなどを語る三宅監督(中央)

生活の中の鬼剣舞を映画に 「くつきょう究竟の地 岩崎鬼剣舞の一年」上映会

NHK文化センター特別講座映画「究竟の地 岩崎鬼剣舞の一年」上映会&三宅監督の語りは12月17日、鬼の館で開催されました。同作品は平成18年から1年をかけ同鬼剣舞の活動を追ったドキュメンタリー映画。上映後、三宅流監督は「芸能はどれも伝承が困難になっているが、岩崎鬼剣舞は地域の生活に根差し今も生かされていることを映画を通じ伝えたかった」と語りました。最後に、同鬼剣舞が「一人加護」などを披露。受講者からは大きな拍手が起こっていました。

空高く上げれ～！

世代間交流会

世代間交流会は12日、黒岩地区交流センターで行われました。同交流会は地区の老人クラブが子どもたちに昔ながらの遊びなどを教えているもので、毎年夏と冬に開催。今回は黒岩小学校の児童23人と保護者らが参加し、たこ作りとたこ揚げが行われました。たこ揚げは同センター近くの田で行われ、絵や名前などが描かれたたこが次々に冬空を舞いました。参加した及川竜旺くん(黒岩小1年)は、「カブトムシの絵を描いたたこを揚げたよ。楽しかった」と話していました。

たこが次々に空を舞い、参加者からは歓声が上がりました



各グループでまとめた意見を発表する生徒たち

「命」を考える

平成28年度中学生サミット

平成28年度中学生サミットは12月27日、江釣子地区交流センターで開催されました。20年目を迎えた同サミットは、北上・和賀地区中学校の生徒会役員が集まり毎年行っているもので、今回は11校34人の生徒が参加。「命」に関わる各校の取り組みの発表や3グループに分かれての意見交換などが行われました。参加した高橋陽くん(和賀東中2年)は「命は重いもの。各校の良い取り組みを取り入れて、北上・和賀地区からいじめをなくしたい」と話しました。

地域をつなぐ道が待望の復旧

国道107号2車線全面開通

国道107号は12月17日、2車線が全面開通しました。同国道は、26年3月末に土砂崩れが発生し通行止めになりました。その後片側交互通行を行いながら復旧工事を行っていましたが、工法の見直しなどにより当初の工期が大幅に短縮され、1年9カ月ぶりに全面通行が再開しました。西和賀町の湯夢プラザで行われた記念式典には高橋敏彦北上市長、高橋大横手市長、細井洋行西和賀町長らが出席。細井町長は「不便を感じていたが、冬を前に全面開通できてよかった」とあいさつしました。

全面開通を待ちわびた利用者らが続々と通過していききました



協力して屋根から落ちた大量の雪をかく生徒たち

力を合わせて雪かき

立花地区除雪ボランティア活動

立花地区除雪ボランティア活動は14日、立花地区で行われました。同活動は、北上市社会福祉協議会立花支部が主催。高齢や障がいにより雪かきが困難な人の家を訪問し除雪を行うもので、中学生の参加は同地区で初めてとなります。当日は東陵中学校の生徒10人や民生委員、地域住民らが協力し庭先や屋根から落ちた雪などの除雪を行いました。自宅周辺を除雪してもらった菅野精功さん(80歳)は「自分では手が付けられなかった。本当にありがたい」と話していました。